

化膿性皮膚疾患にたいする Amoxycillin の臨床成績

中野政男・鈴木恵三

平塚市民病院皮膚科

はじめに

Amoxycillin は1963年英国 Beecham 研究所で開発された Ampicillin 類似の半合成ペニシリン剤である。Ampicillin と異なる本剤の特長ともいべき点は、その吸収性で、食事、摂水等に関係なく、Ampicillin と同量投与した場合、Amoxycillin は約2倍の血中濃度に達する。抗菌力は、ほとんど Ampicillin と同じと考えてよく、グラム陽・陰性の双方に広い抗菌力を有する¹⁾。皮膚科領域における化膿性疾患は、分離菌のほとんどがグラム陽性菌といてよく、ペニシリン破壊型の少数の菌を除いてほとんどが Amoxycillin に感受性を示すと考えてよい。今回われわれは本剤を藤沢薬品工業株式会社から提供を受け、皮膚科領域における化膿性疾患を本剤の治験対象として選択し、治療を行なったので、その治療成績について報告する。

1. 投与対象

化膿性皮膚疾患として、表在性のものに「伝染性膿痂疹」、深在性のものとして「癬および癬腫症」と「尋常毛瘡」、中間に位置するものとして「膿疱性痤瘡」を選んだ。

症例数は総計16で、疾患の内訳は伝染性膿痂疹12例(1例毛瘡合併)、尋常性毛瘡1例、癬および癬腫症2例、膿疱性痤瘡1例である。11例が小児で、5例が成人である。性別では男性10例、女性6例であった。

2. 投与薬剤・用法・用量・期間

Amoxycillin は125 mg カプセルか、細粒(10倍散)のいずれかを用いた。10才以下の小児の場合は、1日150~400 mg を3~7日間投与した。服用は、原則として食後とし、1日2~3~4回分服させた。細粒の場合、粉末のまま服用したり、水に溶解して服用した場合等あり、これは患者の趣向に任せた。

3. 外用薬

併用外用薬としては、2例においてホウ酸亜鉛華軟膏、カルボールチンクリメント、アクネローションがそれぞれ1例であった。

4. 病巣分離菌

病巣から分離した細菌は、全てグラム陽性菌であり、16例中3例は同定を行ない、コアグラージェ陰性の黄色ブ

ドウ球菌であった。このうち2例に3濃度ディスク法(栄研ディスク使用)による Ampicillin 感受性を測定したが、(++)~(+++)であった。

5. 臨床効果判定基準

皮膚科疾患の効果判定を客観的に行なうには、適当なパラメーターが無いので困難な問題である。われわれは基礎疾患の無い膿痂疹の場合、3~5日以内に膿疱、痂皮が消失した場合を有効とし、5日以上10日以内に治癒した場合をやや有効とした。癬および癬腫症の症例では2~3日以内に排膿・膿栓消失しその後数日で治癒した場合を有効とした。膿疱性痤瘡の場合には、5日間投与で群生している膿疱が著明に減少したものを有効、減少程度の少ないものをやや有効と判定した。

6. 臨床成績

Table 1 に示すように、膿痂疹では12例中、有効11例、やや有効1例であった。やや有効の例は、単純性膿痂疹が膿痂疹化した症例であった。症例2は、顔面、特に顎ひげの部分に膿痂疹があり、この付近に汎発しており一部が毛瘡化していたが、毛包炎からまず治癒してきて、3日後に全治した。小児の膿痂疹では、3~5日以内に全てが全治した。尋常性毛瘡の例は、顎ひげの部分の多発性毛包炎で一部膿苔を附着していたが、3日後には膿疱を2~3コ残して治癒していた。癬の例は、右眼部の周囲に発生したもので、腫脹、発赤、膿点を認めたが、内服後2日で大量の排膿があり、膿栓の排出も容易であった。その2日後には治癒した。症例15の癬腫症は、基礎疾患に脂漏性湿疹があり、いわゆるニキビ型の多発性毛包炎が主体で、疼痛を伴うフルンケルがあった。2日目には排膿をみ、既に圧痛は前日から消失していた。3日目にはほとんど治癒した。膿疱性痤瘡は、基礎疾患に前例と同様に脂漏性湿疹があり、顔面、殊に鼻部に群生する膿疱できわめて長期の経過を辿ってきた例である。多くの薬物的、物理的療法に抵抗してきた。この例では、膿疱は減少し、発赤はとれたものの、基礎疾患である脂漏性湿疹が高度のため、治癒には至らなかった。

6. 副作用

カプセル、細粒投与症例、全例において副作用を認めなかった。カプセルを投与した最少年令は、4才であつ

Table 1

Case	Sex	Age	Diagnosis	Daily Dose (mg)	Duration of admin. (days)	Form of drug	Organism	External medicine	Result	Side effect
1 T. W.	m	4	Impetigo (Face & Lower extremities)	375	6	Capsule	<i>Staph. aur.</i>		Good	None
2 K. O.	m	36	Impetigo, Sycosis (Face)	500	3	Capsule	<i>Staph. aur.</i>		Good	None
3 Y. S.	f	4	Impetigo (Face)	250	4	Capsule	G (+) Cocci		Good	None
4 T. H.	m	8	Impetigo (Face)	375	5	Capsule	G (+) Cocci		Good	None
5 H. E.	f	10	Impetigo (Face & Extremities)	375	6	Capsule	G (+) Cocci		Good	None
6 K. N.	m	2	Impetigo (Face & Extremities)	150	6	Granule	G (+) Cocci		Good	None
7 Y. Y.	f	2	Impetigo (Face)	150	4	Granule	G (+) Cocci		Good	None
8 H. M.	m	5	Impetigo (Diffuse)	375	3	Capsule	<i>Staph. aur.</i>		Good	None
9 N. S.	f	6	Impetigo (Extremities)	375	3	Capsule	G (+) Cocci	Carbolzinc-liniment	Good	None
10 T. N.	f	10	Impetigo (Face)	375	7	Capsule	G (+) Cocci		Fair	None
11 H. W.	m	4	Impetigo (Lower extremities)	300	5	Granule	G (+) Cocci		Good	None
12 K. Y.	m	4	Impetigo (Face)	400	5	Granule	G (+) Cocci		Good	None
13 S. Y.	m	39	Sycosis vulgaris (Face)	500	3	Capsule	G (+) Cocci		Fair	None
14 Y. S.	m	31	Furuncle (Face)	500	2	Capsule	G (+) Cocci	BZ-salve*	Good	None
15 S. O.	f	23	Furunculosis (Face)	500	3	Capsule	G (+) Cocci	BZ-salve*	Good	None
16 K. Y.	m	21	Acne pustulosa (Face)	375	5	Capsule	G (+) Cocci	Acne lotion	Fair	None

* Boric acid and zinc oxide salve

たが、服用には特に支障はなかつた。

7. 総括と考按

化膿性皮膚疾患16症例に、Amoxycillin を投与した成績について報告した。膿痂疹12例では、1例が治癒までに10日を要したが、残る11例は、5日以内に治癒した。小児における1日の投与量は150 mg~400 mgで、Ampicillin の通常投与量(20~40 mg/kg/日)の約半量に近い量であつたが、いずれも有効であつた。膿痂疹、尋常性毛瘡、癬と癬腫症における治癒への過程をみると、Ampicillin 以下在来の化学療法剤に比して、遜色ない効果であつたと思われる。膿疱性痤瘡の1例については、化膿性炎症の軽減には有効と思われるが、治癒は望めなかつた。これは他の治療剤についても同様のことが言えるのであつて、本症の背後にある脂漏性湿疹な

いしは内分泌異常の影響の大きさを示すものと考えられる。以上の臨床効果からみると、Amoxycillin は化膿性皮膚疾患に対して、1) 在来の各種治療剤と同等の効果を示す。2) Ampicillin の約1/2の量で充分の効果を期待出来る。3) 1日125 mg カプセルを3~4回の内服では、4才以上の小児なら可能である。細粒でも内服のさい特別問題はない。副作用は全例に認めなかつた。以上のことから、Amoxycillin は、化膿性皮膚疾患に対して、極めて有効な薬剤であると言える。

参 考 文 献

1. SUTHERLAND, R. ; E. A. P. CROYDON & G. N. ROLINSON, : Amoxycillin : A new semi-synthetic penicillin. Brit. Med. J. 3 : 13~16, 1972

CLINICAL EVALUATIONS OF AMOXYCILLIN AGAINST SKIN BACTERIAL INFECTIONS

MASAO NAKANO and KEIZO SUZUKI

Department of Dermatology, Hiratsuka City Hospital

Abstract

The present paper deals with the results obtained in 16 cases of suppurative skin infection to which amoxycillin was administered.

Out of 12 cases of impetigo, 11 cases cured within 5 days, while 10 days were necessary to cure 1 case. The effectiveness was obtained in all children by a daily dose of 150~400 mg of the drug, that is almost a half of usual dose of ampicillin (20~40 mg/kg/day). As for the patients of impetigo, sycosis vulgaris, furuncle and furunculosis, the cure was exhibited similarly with common chemotherapeutics as ampicillin. In case of acne pustulosa, amoxycillin was effective to alleviate a suppurative inflammation, without awaiting however for a cure. This is quite equal to other chemotherapeutics, and some important effects would be suggested thus by seborrhoeic eczema and cryptorrhea behind this kind of disease.

From the clinical results described above, it may be concluded as follows :

- 1) Amoxycillin is effective similarly to common chemotherapeutics for suppurative skin infections.
- 2) The sufficient effect may be expected with about a half dose of ampicillin.
- 3) Amoxycillin may be administered orally at a dose of 125 mg capsule 3~4 times daily for children above 4 years. A trouble was out of the question as well by an oral administration of amoxycillin dry syrup. No side effects were observed throughout all the cases treated. Amoxycillin may be awaited thus for a quite effective drug for suppurative skin infections.